

令和5年度第3回 社会教育委員の会 議事録

日時：令和5年11月21日（火）13：30～

場所：わかくさ・プラザ 学習情報館 2階 ギャラリー

出席者：

（関市社会教育委員・公民館運営審議委員）

出席者：花村 英泰、清水 宗夫、古川 雅志、道家 直樹、大塚 雅之、太田 尚文、
長屋 芳子、三島 善伸、西田 英子、土屋 昭代、大坪 博子

欠席者：鈴木 幸子、早川 貞子、鷺見 花実子、長谷部 弥生

（事務局）

協働推進部：協働推進部長 多田 和夫

協働推進部：生涯学習課長 中村 亜由美

協働推進部： 深川 理代

委託事業者：（株）ジャパンインターナショナル総合研究所 高田 笙子、江口 陽子

1 開会

（事務局）

時間になったので、関市社会教育委員の会を始める。会議に先立ち、関市民憲章・生涯学習都市宣言の唱和を行う。

（全員で市民憲章・生涯学習都市宣言の唱和）

（事務局）

会に先立ち、多田協働推進部長よりあいさつを申し上げる。

2 あいさつ

（協働推進部長）

委員には忙しい中、会議に出席いただき厚くお礼申し上げます。平素、生涯学習の振興、社会教育の推進について支援、指導賜り深く感謝申し上げます。本日は、関市生涯学習まちづくり推進計画について素案が出来たので、意見を聞くために開催した。多くの意見を頂き、より良い計画にしたいと考える。忌憚のない意見を頂きたいと思う。

3 議事

＜事務局より、資料1について説明＞

○関市生涯学習まちづくり推進計画素案について

(議長)

特に項目を区切らず全体を通して意見を頂きたい。ご協力をお願いする。各団体での経験も踏まえて、意見を言っていただきたい。

(委員)

多岐にわたって網羅されていて素晴らしいと思う。行事や図書館の充実など、予算についてはきちんとつけてもらえるのか。

(事務局)

社会的な要請がなくなったので行う必要がないとか、要請が多いので増やしたほうがいいなど、毎年点検しながら予算を立てていく。計画にあるからといって、必ず予算が担保されるものではないが、この計画も適宜見直しを行い、この計画と総合計画と毎年立てる事務事業評価、実施計画等を見ながら予算を組み立てていくことになる。

(委員)

書籍などの予算額はどれくらいか。

(事務局)

図書館の本館で予算を見ている。関市の図書館は同じ規模で考えると、蔵書の予算が多い。

(委員)

I C Tも打ち出していくなれば、蔵書も充実させていきたい。

(事務局)

生涯学習の予算に関しては、維持している方向である。

(委員)

自治会やP T Aに入らないなど、既存のものに入らないのが今の若い人だと思う。いろいろなサークル活動を支援することはいいが、自分たちでしたいという人たちの受け皿があるのか、新たに若い人たちが始めようとするのをサポートできているのか。

(事務局)

新しいサークルを作りたいという相談を受けることがないが、その視点が必要だと思うので、どこかに入れられないか、検討したいと思う。

(委員)

生涯学習活動に前向きに取り組んでいることは評価する。社会教育委員が一番行わなくてはいいけないところは、地域学校協働活動の推進ではないかと思っている。関市で地域学校協働活動が進まない理由が、担当が市民協働、生涯学習、学教の3課にまたがっていることではないか。文科省の発信なので、教育委員会が旗を振れば済むことだが、そこまで強く出ることができないので、市民協働が核にならないと進まないと思う。もっと具体的に書いてもいいのではないかな。

(事務局)

関市教育振興計画が学校教育に特化した計画だった。社会教育や家庭教育を含む生涯学習の計画は別に作るということで、生涯学習まちづくり計画を作ることになった。教育委員会の計画に地域学校協働活動の位置づけがある。学校運営協議会については、「地域委員会をはじめ青少年健全育成協議会、PTA、社会教育委員との協力のもと、連携を強化していく」と書いてある。しかし、各学校の学校運営協議会のメンバーは、人数も構成も差がある。市民協働会に学校教育課と生涯学習課で各学校のメンバー構成を、地域との連携を強め社会教育委員のリーダーシップを発揮できるようにお願いしている。この計画に書いたほうがよろしいなら検討する。

(委員)

書いたほうがいいと思う。

(議長)

この計画に入れてほしいと思う。学校によって数が違う。そして、校長の意向によって変わる。教育委員会と校長会もあるので、統一してもらえば進むと思う。

(委員)

社会教育委員の中で、地域学校協働活動のコーディネーターの研修を受けている。コーディネーターを育てることを主とすればいいと思う。コーディネーターに活動してもらえる場の提供をすれば、校長も動かざるを得なくなると思っている。

(委員)

地域学校協働活動コーディネーターの研修を受けた。地域、家庭、学校があって、目的は地域で子どもをどう育てるか、洞戸地域ではどうやっていくのがいいかを考えることが必要である。地域が狭いのでコーディネーターでなくても、PTAや自治会などで情報が入りやすい。

どの年齢の人も生き生きと育つために、市としてどう支援していくかが大きなことだと思う。歩いていけない人もいる。生涯学習課としては、場所や日程を設定して、広報やLINEで出している。そこに行こうとすると障害が出て、それを乗り越えられない。孤独な人を無くすために地域学校協働活動コーディネーターを大事にしなければいけない。

(委員)

研修を受けた流れがあり、もったいないのでうまく使えるようにしてもらいたい。

(事務局)

コーディネーターの育成について入れさせていただきたい。地域学校協働活動の知名度が低く、学校現場でも知られていないので、啓発活動も入れたいと思う。

(議長)

スポーツ団体について、何か参考になるような話はあるか。

(委員)

部活動について、土日に学校の先生がいないときに、地域に移管していこうということで、学校の部活の延長上に地域移行した部活があると思っている。学校の部活は平日するが、土日にしたくない人は部活に入れないかということや、有料施設を使うと土日にする部活はお金がかかる。小学校のスポーツ少年団はボランティアでしている。地域移行の部活について、謝礼が発生するのか、具体的な話は出てないが、そこを 2025～26 年を目指してこれから協議されていく。桜が丘中学校地域委員会で応援団という名前であいさつ運動をしたり、中学生の職場体験をする企業に電話で確認をしたり、文化祭にボランティアで来てもらおうとか、そういう事もしているが、どこまでが学校との協力関係なのか、あやふやな手探りの状態でしている。

サークルの高齢化はスポーツに関しても同じで、選手も指導者も高齢化している。スポーツ協会の加盟団体が 33 団体あるが、高齢化しているし、スポーツ人口が減っている。少子化で入ってこないし、同年代だけで作りたいという問題もある。

(議長)

今後の活動や現状について、文化芸能関係の先生方はどのような方向で考えられているか。

(委員)

文芸で 80 歳はまだいいほうで、85 歳くらいの方はたくさんいる。出てくる人は体力的にも経済的にもゆとりのある人で、そこに出て来られない人がどうしているのかが、生涯学習では大切なところだと思う。

13 ページにデータがあるが、80 代以上が 0 というのは信じられない。そのデータの返信が高齢者ができていないのではないかと推測する。責任者が高齢すぎて、回答ができなかった会があると思う。

音楽の会場を使う際、エアコン代が 1 時間 200 円かかり、1 回 2 時間借りると、月 4 回で 1,600 円かかる。それをわずか数人の会員で負担するともものすごくお金が要る。ここには経済の支援についてはあまり出てこないが、隠れて出てこられない人の支援をもっと盛り込んでほしい。

(議長)

他の方々、経験やお話があったらどうぞ。

(委員)

武儀地域で、校長先生から参加してほしいというのはあるが、小学校の連絡協議会に社会教育委員は入れてもらっていない。地域のコーディネーターを校長先生から私の友人にお願いされて作ったが、ミシンの指導をする人が足りないから誰か教えに来てもらえないかとか、あいさつ運動にボランティアで参加できる高齢者を探してくださいなど、コーディネーターは校長先生の言うことを聞く係になってしまっている。校長先生は2～3年で転勤するため、地域のコーディネーターで間に入る人こそ、自覚を持って勉強をして、地域をよくするために学校との協働をすることを認識してもらいたい。

武儀の生涯学習センターで開催する正月向けの寄せ植えの教室は、申込1日で満杯なる。人気があり口コミで広がっている講座は、いつも参加しないような方も申し込む。小学校で星の観察会をしたら、いつもは7人しか参加しないのに、親子で100人来たことがある。その辺の皆が参加する理由がよく分からない。

社会教育委員で声はかかって参加はするが、学校のほうには参加させてもらえない。コーディネーターには自覚を持ってほしいのと、関市としての芯の通ったものを作らないといけないのではないかと思っている。

(事務局)

学校にもコーディネーターの研修の案内を出す、申し込みが無い。今まで学校教育関係の方で研修を受けている方はいない。もう少し働きかけをしていく必要があると思う。

(委員)

先生たちは社会教育主事のほうに目が向いているのか。社会教育主事を取られている先生を何人か知っている。それを取っている先生はこの状況は分かっているので一緒に動けるが、コーディネーターとして行ける人を各小学校に配属しないといけない。

(議長)

学校のコーディネーターを発掘するのもわれわれの仕事だが、学校にしっかり物を言っていたくことも一つの仕事なので、気づいたことはどんどん言っていきたい。

(委員)

自分の興味で音楽のほうに2カ所参加したり、約13年前にパン作り教室に参加して、そのあと、有志で継続している。

生涯学習の活用について、自分が学習したことをほかに活かしていくことが難しい。講座を受けた人は、仕事に生かせると思って講座を受けたと思うが、それを仕事に生かしているのだろうか。まずは、自分が好きで楽しむことが第一かと思う。

会場へ行ける人ばかりではない。生涯学習はしていないけれども、自分が好きなことを見つけて自分で何かをしている人は問題がないと思う。自分で特にやりたいこともないし、人の中に入っていくことが好きでないという人もいるが、自分がそれで良しと納得していれば、それでもいい。

いとも思う。自分が本当はやりたいけれども、お金や足がないからやっていない人がいれば、もっと広げなくてはいけないと思う。

(議長)

経済的な面や、性格的に人前に出ることが得意でないということはある。このことは、今回の資料の中でも気を使っていく必要はあると思う。

(委員)

さまざまな活動やひとつの関心に対して皆で集まり、関心ごとについて学んで高めていくことをやる人が少なくなってきたと思う。それぞれが自分で好きなほうに行くことはあるが、グループやまとまりを作って、中心的な立場の人を中心に会をまとめていながら、自分たちの目標に向かって活動していくこととは違ってきている。個人的な活動では、横のつながりをあまり求めている。少し変わってきているかと思う。

(議長)

P T Aにはさまざまな課題があると思うが、実態はどうか。

(委員)

P T Aの現状としては、今までは役員を選出するときに地区から出していたが、毎年しないといけないなど、さまざまな問題がある。保護者も主体的にP T Aに参加できるように、できる人がするという事になって変わっている学校もある。

倉知のふれまちに在籍しているが、若者が参加しないし、ふれまちに関心がない。若い子たちがやりたいことや、趣味や好きなことが各地域のふれまちでできると、子どもたちも巻き込んでいける。それを企画することで若い子が寄ってくるだろうし、そういった子たちにも参加してほしいという思いがある。会議自体にも入ってもらい、どんなイベントがいいか、どうしたらこのイベントが盛り上がるかなど、若い子の視点で企画が出来たらいいと思う。

図書館の利用で、各地域に子どもたちが集まって勉強でき、トークもできて、そこで高齢者や地域の小さい子と触れ合ったりできる、地域の拠点にふれまちがなれるといいと思う。委員が中心となって出来たら、まちづくりも若い子たちが参画できるのかと感じる。

(事務局)

それに関しては、31 ページの 20 番の 3 つ目の部分に意識して書いている。議会からも、若者たちの居場所や活動の場所をどこかで作れないかという提案があり、この計画にそのエッセンスを盛り込ませている。そういう居場所をふれあいセンターやあいせき、もしくは別の場所などに相談員のような方を配置して居場所を作れないかと、今検討をしているところである。担当員は市民協働課でしているが、生涯学習部門としても連携して進めることを書いている。

(議長)

皆さま方の経験や思いは事務局も心得ている。ほかによろしいか。

(委員)

サークル参観日は関係ないか。文芸関係は勉強会が大体ひと月に一回なので、少なくとも参観日の曜日は、1カ月以上該当する日にちを設定してほしい。

(議長)

よろしいか。長時間ありがとうございました。本日の次第は了解いただいたということで、これで決定させていただく。

(事務局)

説明したいことがあるので、担当を呼んでくる。

(委員)

空いた時間なので発言させていただく。先ほどの地域学校協働活動推進委員の研修セミナーは、今日傍聴している北村議員も受けていただいている。これが広まって、大勢の人が参画していけるといいと思う。

(事務局)

研修も4回あり、今月末が4回目で1回だけ岐阜大学に行くが、毎年あるので皆さんに連絡する。ご都合がつく方は受けてほしい。

(事務局)

成人式について担当からご説明させていただく。

(事務局)

今年も成人式を行う。日程は関地域が文化会館で、中学校を分けて2回ある。また、武芸川地域で洞戸・板取で一つ、武儀・上之保で一つである。コロナ前は社会教育委員の皆さまに文化会館のほうに来てくださいと案内をお出ししていた。コロナにより、昨年度までは出席の自粛をお願いしていたが、今回ご案内を差し上げる運びとなった。各地域と調整して、長屋委員と三島委員には洞戸・板取地域から直接案内を出させていただく。西田委員には武芸川から案内が行くことになっている。大坪委員と土屋委員、長谷部委員には武儀・上之保から案内が行く。その他の方は、関の文化会館の10時と2時半の2回になる。どちらか1回、2回とも参加、両方とも欠席という3パターンでご回答いただきたい。

(議長)

令和6年1月7日(日)に記載の時間で開催される。

(委員)

市長は全部回るのか。

(事務局)

市長や主賓、あいさつがある来賓の方が全部回るために、こういう形にしている。

(議長)

皆さん、ご協力のほど、願います。

事務局にお返しする。

4 その他

(事務局)

ありがとうございました。皆さまから頂いた意見を反映して、計画を策定していく。終わりに中村生涯学習課長よりあいさつを申し上げる。

(生涯学習課長)

ご意見を頂きありがとうございました。今後の予定について説明させていただく。皆さまから頂いた意見をもとに、この計画を修正させていただく。修正のあと、12月初めに庁内の政策検討会議に諮る。そのあと議会運営委員会に諮った後、年明けに市民の皆様にパブリックコメントを1カ月間ほど行う。その意見を基に修正を図り、次の社会教育委員の会にほぼ固まった状態で皆さまにご提示する予定である。それまでの期間お気づきの点があれば、検討させていただくので、よろしくお願いします。

本日はありがとうございました。

以上